地域ぐるみで決起せんなら

人口六千八百が味方

公害闘争　ねばる三里校区連協

いま大牟田・荒尾の両市民をまきこみながら、フッ素（フッ化水素ガス）公害が広がり、重大問題化しているが、そのなかで市民の間に呼びかけながら、公害反対闘争をねばり強く発展させている〝三里校区連絡協議会〟（議長は竹金蔵さん。六地域分会が結集し、組合員数二百人）の活動が、注目を集めている。

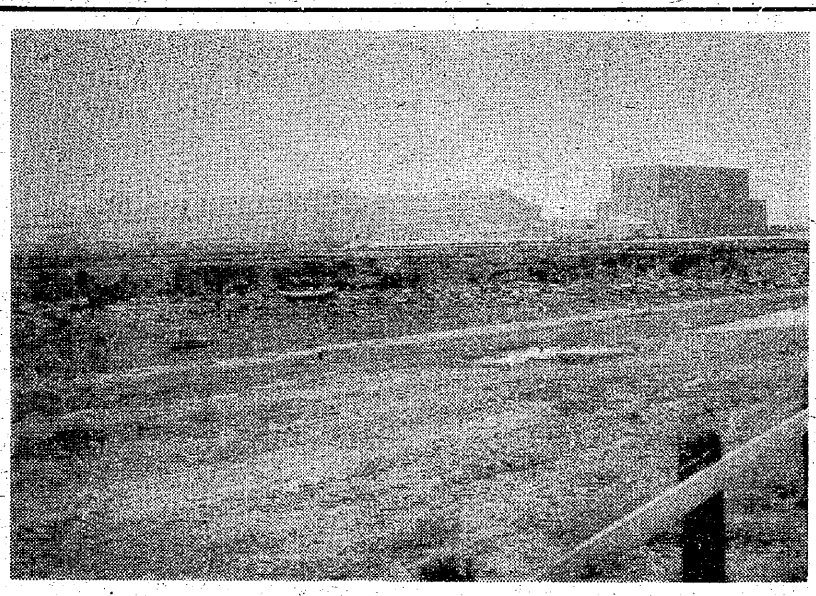
フッ素公害起きる

三里校区は総所帯数千八百九十七、人口六千七百九十七人（五月末現在）をもって構成している、荒尾市に隣接する一地域である。

すでに本紙の前々号で詳報したように、フッ素公害が、松の木の若芽やブドウの葉が枯れるなど、ハッキリと目にうつりながら問題化したのは、去月十七、八日のことであった。

フッ素公害が起ったのは、こんどがはじめてであるが、すでに新聞などでも明らかになったように、四山新鉱に隣り合って操業開始してから二年ばかりになる、三井アルミニューム工業三池事業所（土井所長）が、まき散らしてきているものだ。

常に、命と健康を守る闘いに、それもきわめて鋭い反独占の立場から、積極的に取り組んできている同校区連協として見のがすはずはなかったのである。



フッ素公害をまき散らしている三井アルミ

三里校区の闘い

もともと同校区連協の公害反対の闘いは、数年前に大牟田市で大問題となり、早米カ浦漁業協同組合のあの決起にまで発展した、例のカドミューム公害発生のときからで、このとき同校区連協は、カドミューム公害の人間生活のうえにもたらす恐しい影響を、ただちにビラにして同校区住民に対し、戸別に配布するかたわら、カドミューム公害をつくり出した三井金属三池製煉所に押しかけては、十分な損害賠償と施設の改善を要求し、同工場正門に座りこんで闘った早米カ浦漁協に対する支援カンパさえ行ない、これをはげましたのだった。

ひき続き亜硫酸ガスによる被害の問題が発生すると、こんどは福岡県総評が購入した高精能の測定器を、三里校四山分校に据えつけて実際に測定を行ない、その結果が出るとすぐビラにして、同じように同校区住民にシラミツブシに配っては、亜硫酸ガス公害に対する一般の認識の啓発に努力した。

市当局現地視察へ

このような活動をねばり強く続けてきていたところに、フッ素公害の発生だったのである。

さっそく役員会議を開いて話し合い、さらにそれによる被害の状況を点検、そのことをもって、さらに広く地域住民の間に問題提起を行なった。もちろん、こんども、全校区戸別にビラ配布をもって。

地域住民の間に、フッ素公害に対する認識が高まっていったのは当然で、それがついには湯村誠男・大牟田市議（社会党）と市当局、とくに公害担当係員による現地視察という事態にまでもりあげたのである。

このとき一部に「損害賠償を請求しては……」との声も出ている。

そのことも、けっして誤まりではない。だがより基本的に重要なことは、同校区連協の役員が異口同音に指摘するように、三井アルミに対して、「あくまでフッ素ガスそのものを出させない措置をとらせること」で、そこには何といっても、〝反独占〟の姿勢をつらぬくことこそが求められている、といえよう。

対象は六千八百人

同校区連協は、この闘いがそうそうたやすくは進まないことを知っており、従って、これからは、荒尾市側をはじめ、外来、諏訪、新港町などの地域組織にも呼びかけてゆき、もっと戦線を大きく広げながら、ビラ配りの強化、署名活動の展開、住民をこの運動へ結集しての、地方自治体やその議会へ働きかけるなど、闘いを発展させてゆくといっている。

問題は同校六千七百九十七人（約六千八百人）の人口を、どう決起させるかだ。

「坑内に便所を」

会社「ごかんべんを」　組合

組合　安全衛生法では、坑内にも便所を作れ、としてあるが知っていますか。

会社　……。

組合　答えてもらいたい。

会社　以前は、坑内便所を造っていたが、いまのところ考えていない。

組合　坑内にタレ流しでは、衛生上から見ても不衛生ではないか。

会社　いい方法がなく、大便の処理・臭気も大変だがどうにもならない。

組合　いまの〝便器〟は、処理や臭気防止も考えられていて、非常によくなっているのでだいじょうぶだ。

会社　処理する者がいない。

組合　安い賃金で働かせようとするからないのであって、特別な労働条件を考えれば、処理する者は集めることができるはずだ。

会社　とにかく、かんべんしてもらいたい。

×

日刊紙〝みかわ〟（三川指導部発行）の、これはまたあきれた記事であるが、同記事はひき続き、なお次のように述べている。

「便所要求に対する会社の態度は、以上のようなものです。労働者を、低賃金で腹一パイときつかい、ぼろもうけしている会社は、一方私たちの要求に対しては何ら誠意を見せません。

会社はもうけるためには、数十億もの金を惜しまず、どしどし設備投資をしているのです。便所くらい作ろうと思えば、簡単にできるのです」

切羽は熱く仕事はきつい
こんな炭鉱ははじめて…
きて見てびっくりの新入鉱員

——どうですか？　三井は。

▼「いやァ、おどろきましたねェ。私は、三井系の炭鉱は初めてですが、こんな会社は初めてですねエ」

——坑内は、どうですか？

▼「たしかに、炭層は日本一です。しかし……」

——と、いいますと？

▼「賃金が、まったく安すぎます。それに、切羽は熱いし、材料は遠いし、これじゃァ、長続きしません。向こうにいるときは、長ズボンで作業してましたから」

——作業の仕方はどうですか？

▼「仕事そのものは同じですが、作業のしかかりからそうですが、心がまえがですね。気持の余裕がありませんね」

——……？

▼「向こうでは、採炭も掘進も、準備時間といって、十分くらい休憩所におちついてから作業しかかるという具合でした」

——そうでしたか。

▼「三池では、そそくさと切羽へ直行。また走行中の人車の中で着替える人がいるのを見ますが、まったく救い難い感じです」

——ほかに感じたことは？

▼「社宅事務所……何ンやとつき悪いですね。ヘイや台所の開き戸の修理は、自費でせよといわれて、ほんとうにハラが立ちましたねェ。向こうでは、これこれだといえば、すぐ見にきてくれましたし、修理してくれました」

——組合について、何か？

▼「たよりない感じ。まだきたばかりで……。とにかく、切羽は熱いし仕事はきつい。それに、金は安い。三池なんかきなきゃよかった。みんな、そういっていますよ。入社してわずか一カ月。もう恐らく退める人が出るでしょう」

まさに、企業は大手中の大手でも、労働条件は中小でも最低だ。入社してきて早々、もう聞く退める話である。

×

三川指導部の日刊新聞〝みかわ〟から。

三作支部が職場新聞発行へ

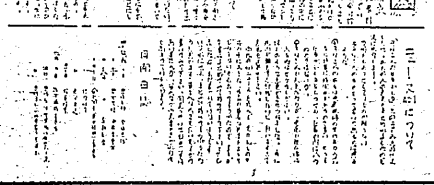
一つだけ、飛び離れた職場で闘っている〝三作支部〟（早瀬朝徳中央委員）が、いよいよ職場新聞の発行に乗り出した。

〝三作支部ニュース〟がそれで六月七日にその第一号が誕生、近く二号が出るという。（そうこうするうちに、トッパンの二号が発行されたが）

現在三作支部の組合員は、勢力からいえばわずか十六人。（分裂直後は二十二人だった）

苦しい過去十数年間の歩みの中から、どんな新聞が育っていくか期待は大きい。がんばれ。

スタートした三作支部の職場新聞



三作支部ニュース

春闘で確かな前進
まだ続く闘い二つ

大阪　西川米生

七二年春闘は、資本と権力の一体となった不況宣伝のなかで、職場の組合員大衆、とくに青年婦人労働者を中心とする激しいストライキによって、大きな前進をかちとることができました。七二年春闘を闘った職場の労働者は、「よく闘った。おれたちの団結は前進した」、と語りあっています。

とくに四・二七—交運・公労協統一ストの威力と成果は、歴史的な闘いだったといえましょう。一万円以上の回答は、六月十二日現在で全国で二、八五〇組合（昨年二、三八三）で、円・ドルショックの攻撃の中で、それなりの前進をとげました。

しかしまた今後の課題として、職場労働者の要求は賃金だけでなく、時短や労災、職業病、老令保障、諸権利とまさに多面的であり、これを総合的に追及しないと労働者の生活が守れないところまできています。

このように、労働運動の課題は山積しています。春闘はいま、日本の労働運動にとって中心的な役割をになう闘争ですから、これらの課題は今後の春闘の中で追及されることになりましょう。

大阪でいま、二つの大きな闘争をすすめています。その一つは、きびしい圧制と差別の中で、三池の旗を守りながら苦闘しておられる組合員・主婦の会のみなさん、いかがおすごしですか。

大阪日々新聞労組に加えられている攻撃との闘いです。組合つぶしをねらった不当なロックアウトを（四月二十七日に）うけ、大阪総評を中心にして、地域の労働組合が共闘会議を結成し、支援して闘いをすすめています。

もう一つは、右翼暴力ガードマンの導入による、全金細川鉄工支部に対する攻撃です。

自民党政府は、今国会で警備業法を全野党の反対をおし切って成立させました。この法律は暴力ガードマンを公認し、労働運動への介入を助長する危険さえもっています。

さて、三池労組・主婦の会の〝訴え〟については、宮崎さんや山本さん、それに私と三人で、それぞれカンパ運動をすすめています。たいしたこともできませんが、二万円程度は集めることができましょう。（訴えは追加して印刷し、六・二九の労大大阪分校十周年記念集会にも訴え、約二千七百円あつめました）

昨年入院の折は、お見舞までいただき有難うございました。体の方も少しずつ健康を回復していますが……まだまだ薬をのんでやっと仕事をしている状況です。体力の許す範囲でがんばりたいと思います。

組合員・主婦の皆さん、ご苦労さんです。未来は私たちにあることを確信し、ともにがんばりましょう。

×

西川さんは大阪総評のオルグをなさっている三池出身の方です。「大阪市北区与力町二丁目二九」